

「日本経済と資金循環の構造変化に関する研究会」報告書 正誤表

令和6年6月14日に公表した「日本経済と資金循環の構造変化に関する研究会」報告書については一部に誤りがありましたので、下記のとおり訂正します。

なお、現在の財務総合政策研究所ホームページ「日本経済と資金循環の構造変化に関する研究会」報告書には、訂正後のものを掲載しております。

該当箇所	誤	正
p. 25 (第2章 マクロ経済理論から見た日本経済の資金循環表)	1990年代以降のマクロ経済現象は、物価が安定していて長短金利がゼロ水準に収敛していくようなマイルドなデフレ過程において、統合政府の生涯予算制約に支出超、つまり「貸しっぱなし」が生じる。一方、家計の生涯予算制約に収入超、つまり「借りっぱなし」が生じるケースとして説明することができる。このように生涯予算制約が満たされない下では、ワルラス法則が逆転した、一種の均衡状態が生じる。統合政府の「 <u>貸しっぱなし</u> 」と家計の「 <u>借りっぱなし</u> 」が四つに組んだ状態は、ドーマー条件が成立していても生じる。	1990年代以降のマクロ経済現象は、物価が安定していて長短金利がゼロ水準に収敛していくようなマイルドなデフレ過程において、統合政府の生涯予算制約に支出超、つまり「 <u>借りっぱなし</u> 」が生じる。一方、家計の生涯予算制約に収入超、つまり「 <u>貸しっぱなし</u> 」が生じるケースとして説明することができる。このように生涯予算制約が満たされない下では、ワルラス法則が逆転した、一種の均衡状態が生じる。統合政府の「 <u>借りっぱなし</u> 」と家計の「 <u>貸しっぱなし</u> 」が四つに組んだ状態は、ドーマー条件が成立していても生じる。

【連絡先】

財務省財務総合政策研究所総務研究部

総括主任研究官 鶴岡

研究企画係 升井

電話：03-3581-4111（財務省代表）

内線：5229, 5489